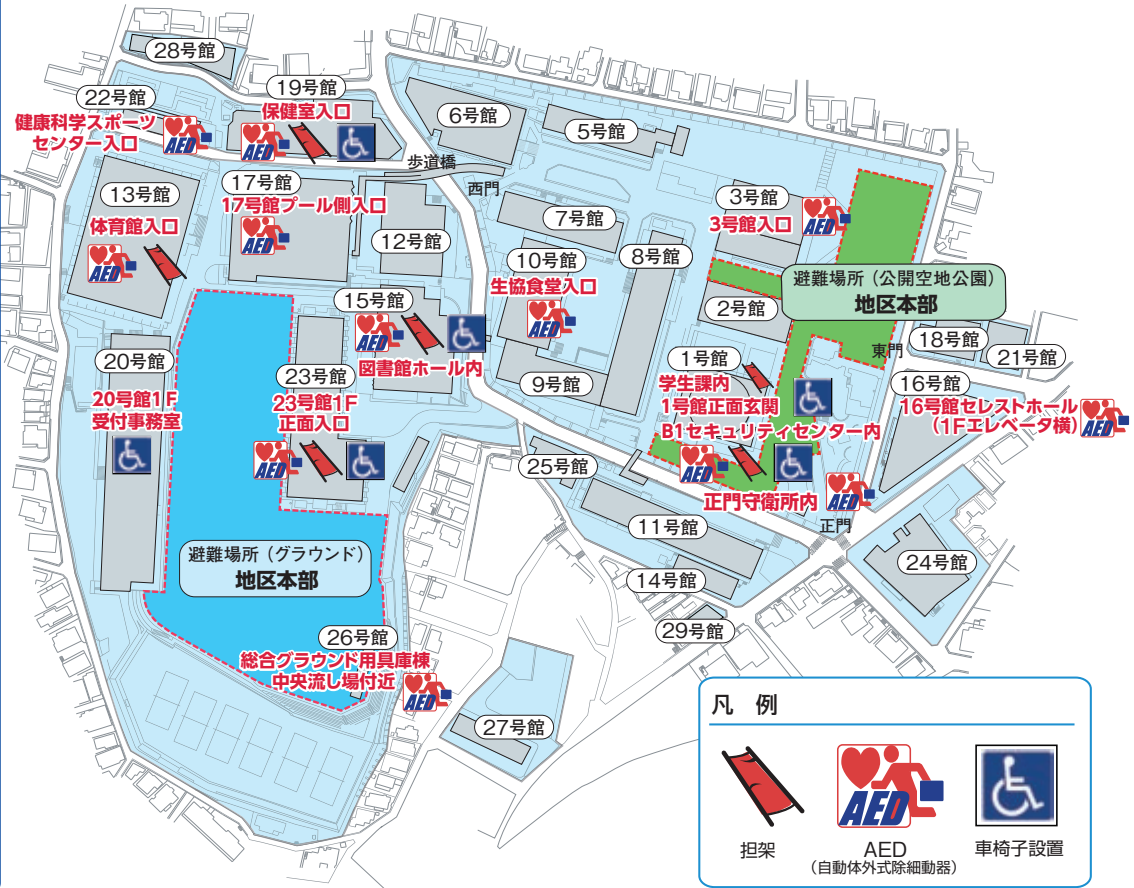


15.横浜キャンパス緊急避難場所

横浜キャンパスの避難場所は ▶▶▶ グラウンド、公開空地公園

横浜キャンパス避難場所



凡例

- 担架
- AED (自動体外式除細動器)
- 車椅子設置

POINT

地震が発生したら

- 落ち着く**
大地震の揺れは強烈ですが、パニックを起こすと、ますます恐怖が大きくなるので、落ち着いて行動する。
- 危険物から離れる**
窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。実習中や課外活動中などで、周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れる。
- 落下物から身を守る**
机の下にもぐり、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込む。
- 出口を確保する**
火災等の二次災害から逃げられるように、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。(余裕がある場合)
- 揺れがおさまるのを待つ**
安全を確認して、揺れがおさまるのを待つ。

●学内の建物はすべて耐震対応措置をしています。
●建物の側面はありませんが、落下物に注意しましょう。
●学内はすべてガラスに飛散防止措置が施されています。

地震が鎮静化したら

- 出口に殺到しない**
人が一斉に出口に殺到すると、圧死者がでる可能性があるため、あわてず安全なスペースを探す。
- 周囲の状況を確認**
周囲のものが倒れたり、落下してくる恐れがない場合は、その場で待つ。危険と判断した場合は、安全なところへ移動する。
- 初期消火**
火災が発生している場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。消火が困難と判断した場合は、すみやかに火から離れる。
- 負傷者の救護**
負傷者がいる場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員に連絡する。

避難する時の注意点

- 教職員や非常放送の指示に従って落ち着いて避難**
身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく。飛散したガラス等が危険にならないように必ず靴を履くこと。
- 火災が発生している場合**
煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- 階段で移動**
エレベーターは使用せず、階段で移動する。

エレベーターは震度5強以上になると最寄階に自動停止し、扉が開きます。その後階段で避難してください。万が一閉じ込められた場合、非常ボタンを押すと、大学のセキュリティセンターとの連絡が可能となります。あわてず救助を待ちましょう。

大学構内避難場所

避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適している。大学ではあらかじめ以下の場所を避難場所として想定しているが、地震時の状況により安全な場所へ避難すること。

横浜キャンパス

避難場所▶▶▶ **グラウンド**
公開空地公園

湘南ひらつかキャンパス

避難場所▶▶▶ **陸上競技場**

- 安全確認**
避難先(グラウンド、公開空地公園、陸上競技場)において、学生、教職員などの安全確認を行います。「安全確認カード」を必ず記入してください。
- デマを信じないこと**
すべての情報発信、情報収集は、公的機関の発表などに基つき、避難場所に設けられた地区本部にて行います。デマなどを信じて軽率な行動は避けましょう。
- ボランティアのお願い**
災害後、安否情報などの収集および発信、その他の仕事についてボランティアをお願いします。受付カウンターを設けますので、自分の安全を確認し、自宅に被害がないことを確認した後に参加してください。

安全が確認されるまで大学にとどまる

余震が落ち着き、帰宅手段の安全が確認されるまで無理に帰宅せず、原則として大学や避難場所へととどまること。

通学途中などに徒歩で帰宅する場合の目安は20km以内。
チェーンメールやうわさなどにまどわされず、テレビ、ラジオなどで正確な情報を収集する。

キャンパスから20kmの地図